

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設の研究用）

西暦 2018年 8月 20日作成

<p>研究課題名</p>	<p>造影超音波による肝細胞癌の体幹部定位放射線治療（SBRT）の治療効果所見</p>
<p>研究の対象</p>	<p>2013年4月1日から2018年7月30日までに横浜市立大学附属市民総合医療センターで単発、腫瘍径4cm以下、チャイルド・ピュー分類（肝臓の障害度を表す指標）5-7点の肝細胞癌患者さんで、切除・ラジオ波熱凝固療法に不適または拒否し SBRT 治療を受けた患者さん。</p>
<p>研究目的 ・方法</p>	<p>生命予後を延長するために腫瘍を局所制御することは肝細胞癌治療において最重要課題である。肝細胞癌の完全壊死を達成する治療方法で保険収載している治療は3つ、すなわち切除・ラジオ波熱凝固療法・体幹部定位放射線治療（以下、SBRT）である。その評価判定は造影 CT/MRI であるが、造影剤アレルギー、腎機能障害、体内金属のため全員の方が実施できるとは限らない。一方、造影超音波（以下、CEUS）は被爆もなく、造影剤アレルギー、腎機能障害の方にも使用可能である。切除・ラジオ波熱凝固療法に不適または拒否例における SBRT 治療後、造影超音波検査（以下、CEUS）を用いて治療効果所見を検討し、その有用性について検討することが研究の目的である。</p> <p>研究対象予定は2013年4月1日から2018年7月30日までに SBRT を施行した60症例である。SBRT 治療で経時的に撮像した CT または MRI の評価結果で局所再発なしと判定された症例において、SBRT 治療後少なくとも最低1か月、4か月、7か月、10か月、13か月後の CEUS 所見を経時的に評価し、局所再発なしとして最も優位な CEUS 所見を解明する。</p>
<p>研究期間</p>	<p>西暦 2018年 10月 15日 ～ 西暦 2020年 3月 31日</p>
<p>研究に用いる 試料・情報 の種類</p>	<p>登録された患者様の基本情報（年齢、性別、診断名、治療歴、肝硬変の有無、既往歴、併存疾患、アレルギー歴など）をもとに、血液生化学検査、造影 CT 検査、EOB-MRI 検査、造影超音波検査の所見を用いて、肝細胞癌の SBRT 治療を行い、肝細胞癌の完全壊死症例としての最も優位な CEUS（造影超音波検査）所見について検討した。</p>
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話または FAX でお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。</p>	

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設の研究用）

問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57

横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター 沼田 和司

電話番号：045-261-5656（代表） FAX：045-231-1846